

「まちとライフスタイルの明日を探る」セミナー

# 子どもの教育とまちづくり

2011年春に彩都の箕面市域に開校する箕面市立の小中一貫校を中心に、これからの教育に求められること、そして、教育とまちづくりのあり方についてお話しいただきました。



まちづくりと教育って関係あるの？

小中一貫校のメリットって何？

箕面市が取り組んでいる地域づくりとは？

## 「まちとライフスタイルの明日を探る」セミナー2010

- 日時 2010年3月17日(水) 14:00~16:00
- 会場 千里ライフサイエンスセンタービル サイエンスホール
- 主催 財団法人都市活力研究所、日本経済新聞社
- 後援 彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会
- 協賛 阪急電鉄株式会社、阪急不動産株式会社

### 第1部 基調講演

## 箕面市における子育てと教育

〈小中一貫校の取り組み〉 箕面市 教育委員会 教育次長 兼 子ども部長

中井 勝次 氏

近頃とみに耳にすることの多い小中一貫教育への箕面市独自の取り組みについて興味深いお話しをお聞かせいただきました。

### 「子ども部」によって幼保の一元化を実現

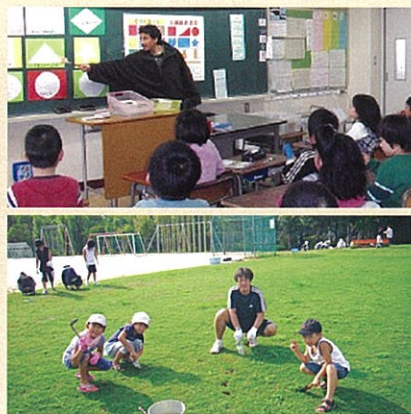
箕面市における子育てと教育についてお話しする前に、箕面市の教育委員会について少しご紹介します。箕面市の教育委員会には、「子ども部」という組織があります。この「子ども部」があることによって、0歳から生涯教育まで含めて教育委員会で一元的に担当できるようになりました。まさに人間の成長そのものを側面からサポートできる体制が整ったということです。「子育てしやすさ日本1」というフレーズを掲げている箕面市です。で、育ち、学びの基盤づくりということをしつかりと考えていきたいと思っています。

0歳から5歳までのいろいろな行政施策のなかで、もっともニーズが高いのが、実は保育所です。小中一貫教育という考え方以前に、幼稚園と保育所、いわゆる幼保一元化の考え方がありました。多くの自治体では、保育所は児童福祉です。福祉行政で担当し、一方で、幼稚園は教育です。教育委員会が所管しています。国では厚生労働省と文部科学省です。箕面市の教育委員会では、先ほどの「子ども部」があるこ



とによって、幼稚園と保育所を分け隔てずに一元化して子育て、教育の施策を進めています。

さらに、国の施策として、「認定こども園制度」ができました。地域の実情に合わせて、幼稚園と保育所のいいところを生かしながら、両方の役割を果たすという複合的な施設です。箕面市では、大阪府内で初めての小中一貫校として、箕面森町に「とどろみの森学園」を開校しましたが、その敷地のなかに「認定こども園」を2011年4月に開園します。0歳から2歳までが保育所3歳を超えたら幼稚園で保育所機能を担うことで、0歳から15歳までが「一緒に「とどろみの森学園」の同じ敷地のなかで過ごすことになります。



※箕面市立小中一貫校「とどろみの森学園」

今、この自治体も頭を悩ませているのが保育所の待機児問題です。箕面市でも、一部の方に入所をお待ちいただいているという状況です。そこで、箕面市では、「保育所待機児童ゼロプラン」を作成し、公共施設を見直して保育所にするなどの取り組みを行い、今後5年間で定員330人増を目指しています。

### 子どもたちの負担を軽減し「中一ギャップ」を解消

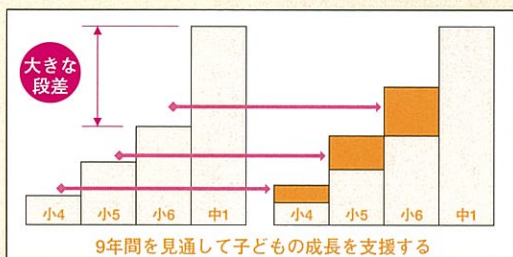
ここでは、学校入学までの箕面市の取り組みについて紹介しましたが、つぎに箕面市の教育方針と、今回のテーマである小中一貫教育についてお話しします。

箕面市では、豊かな育ちと確かな学びを実現していくために、「知・徳・体」の3つの要素を大切にしています。学力向上と、豊かな心と、健康な身体、この三つが備わってこそ、子どもたちが大人になったときに、しっかりと生活を

していける基礎的な力が育まれると考えるからです。

今、小学校と中学校を比較すると、学習意欲にたいへんな差が生じています。また、不登校の数字を見ましても小学校では少ないのですが、中学校にいくと一挙に3倍になります。

小学校の6年間の1年毎は、それほど大きな差はありませんが、小学校6年生と中学校1年生の間の段差は、小学校の学年毎の段差と比べると、その何倍にもあたる大きなギャップになっています。



わゆる「中一ギャップ」と呼ばれている現象です。この問題に対しても有効であることから、箕面市では小中一貫教育を導入し、もう少し早い時期から徐々に段差を埋めていく努力をしています。

小中一貫校は、授業面では9年間で、4年、3年、2年で分けます。6年間ではなく、最初の4年間で基礎的なことをしっかりと学習します。そのあとの5年、6年、中学1年では、小・中学校の教員が課題を共有し、共同でカリキュラムを作成したり、小学校に中学校の先生が教科



※箕面市立彩都小中一貫校イメージパース

担任として来るなど交流を図ります。そうした取り組みが子どもたちに安心をもたらし、さらにクラスも安定し、仲間とのつながりも自然と高まっていきます。

小中一貫教育のもうひとつのメリットが、異年齢の交流です。上級生は、下級生から信頼を得たり、憧れられたりすることによって、非常に強い責任感と自信が得られます。一方、下級生は、上級生と接することによって、自分もこうなるんだというのが手に取るように分かって安心や目標が生まれます。

### 小中一貫校が地域の核になる

そして、一貫教育にとって大切なもう一つの要素が地域です。学校には学校の役割があり、家庭には家庭の役割が、地域には地域の役割があります。この三つが揃って初めて一貫教育も成り立つと考えています。地域の持っている力を最

大限に利用させていただくのが、いまの学校の一つの方向になっています。

また、箕面市では、地域を愛し社会を考えることを、子どもたちにも身に付けてほしいという思いから、地域への見方、考え方、そして地域への愛着や誇り、地域のために自分たちが何をやるのかというこの5つのポイントを学んでほしいのですが、小中一貫の9年間を通して学べるからこそできるようなものではないかと考えています。

とりわけ2011年に彩都に開校する小中一貫校では、地域との連携・交流に注力していきたいと考えています。

開校する時点では、箕面市域の中に公共施設がありません。この学校だけが唯一箕面市の公共施設となります。彩都の小中一貫校が地域づくりの核になっていく必要があると考えます。そして、地域が成熟してくるにつれ、地域の方々にどんどん学校に関わりを持っていただいて、今度は学校を皆さんで育てていただければと思います。当面は、学校を中心として地域づくりをしていきたいと思っています。

学校がいろいろなところとつながる。幼稚園ともつながる。ライフサイエンスパークや周辺の教育機関ともつながっていく。何よりも先にまちびらきされています彩都の茨木市域ともつながる。そうして、子どもたちが地域や友達ともつながり、様々な社会と関わりを持つなかで成長する。そういう学校を目指していきたいと思っています。



※活気ある彩都の街並み

## 第2部 ミニ・パネルディスカッション

# ミニ・パネルディスカッション 「子どもの教育とまちづくり」

小中一貫教育の実績をご紹介いただくとともに、地域との連携・交流について、彩都の現況に沿ってお話しいただきました。

彩都ではいよいよ  
箕面市域がまちびらき

**澤木** 最初に彩都協議会事務局の澤木さんから彩都の紹介をお願いします。

**澤村** 彩都は、箕面・茨木丘陵に位置し、大阪モノレール彩都線を用いて、大阪市内の梅田まで約36分、大阪空港まで約29分と、利便性の高い立地環境です。まちづくりの状況ですが、2004年4月に、彩都西部地区がまちびらきし、以来、順次開発が進められ、大阪モノレール彩都線延伸、彩都西駅の開業等を経て、今年1月末には人口65000人を超え、約2200世帯が暮らすまちとなっております。そして、来年の春には箕面市域の立会山エリアのまちびらきを予定し、小中一貫校が同時に開校します。



大阪大学大学院教授 博士(工学)  
**澤木 昌典**  
コーディネーター

(財)関西情報センター・兵庫県立人と自然の博物館等を経て現職。環境共生や自然共生を重視した都市計画・地域計画に関する教育・研究を展開。地域の特性を生かしたまちづくりや環境学習等の市民活動も支援している。

箕面市教育委員会 教育次長  
兼 子ども部長  
**中井 勝次**  
パネラー



1979年、箕面市役所に入庁。2007年、市長公室長を経て、現職の教育次長兼子ども部長に就任。

### 一貫教育導入の メリットは何なのか

また、彩都のブランドステートメント「みどり」とみらいの見える丘が示すように、「みどり」は自然や環境を、「みらい」は次世代を担う子どもたちと科学技術をイメージし、自然に親しむまち、先端技術が暮らしに活かすまち、子どもを優しく包み育むまちなどをテーマに関係者共々取り組んでいきたいと考えています。

**澤木** ここからは、箕面市の小中一貫校の話題を中心に、彩都のまちづくりについて議論していきたいと思っております。小中一貫校は、公立でも徐々に増加していますが、私立ですでに取り組まれています。公立の一貫校というのは、私立とどのように違ってどのような効果を期待でき

るのかそのあたりはいかがでしょうか。  
**中井** 私立では早くから小中一貫に取り組まれている学校もありますし、中・高という枠組みで取り組まれているところもありますが、その目的とするところは、やはり受験ではないでしょうか。公立も受験を度外視しているわけではありません。むしろ、「知・徳・体」というバランスの中で、「知」は学力向上についても大切に考えています。子どもたちの成長過程で、学力向上、体力向上、そして豊かな心の育成は何よりも必要だと思います。

現在、すべての中学校だけではなく、児童数が多い大規模校といわれる小学校にも、生徒指導担当を配置するようにしています。そうした取り組みの中から中学校で荒れたその芽が、実は小学校にあったということが分かってきました。小中一貫校では、小・中学校を通して生徒指導に取り組み、子どもたちが持ついろいろな課題に丁寧に対応することができそうです。先ほどの基本的な三つの要素、「知・徳・体」が、さらに一歩進むのではと評価しています。



彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会 事務局次長  
**澤村 晋介**  
パネラー

1984年、大阪大学工学部建築工学科卒業。同年、大阪府入庁。1994年、泉南市事業部に転出。2005年、彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会事務局総括調査役を経て、現職の同協議会事務局次長に就任。

**澤木** 9年間も同じ学校へ行くと、友達関係が固定されてしまい、例えばいじめられる子どもになってしまったら、そこから脱出できるのかと心配をされる方もいらっしゃると思います。

**中井** 現場の声を聞きますと、それがほとんど少ないようです。むしろ、何も知らない、経過を知らない中学校の先生が、一から接する方がアメリカが多いようです。

### 地域との連携による コミュニティ形成

**澤木** そういった小中一貫校が、2011年度にまちびらきをする彩都の箕面市エリアに開校します。その地域にはまだ住宅も少なく、まちがあまりできていない状況ですが、箕面市では、これからのように、まちと学校をともに育てていくのがお聞きしたいと思っています。

**中井** 当初は住民の方々に集まっていた場所もない地域ですので、学校の中に集まっていただけの部屋を設けたいと考えています。そこに保護者にも保護者以外の方にも集まってもらって、学校の中で顔見知りを作ってもらいたいと思います。その点、彩都では茨木市域の学校が先行していますので、しっかりと学ばせていただくことと思っています。

**澤木** 澤村さん、彩都の茨木市エリアでの実績を踏まえるといかがですか。  
**澤村** 茨木市域の中学校、小学校のどちらも、学校、保護者とも、地域の連携に取り組み姿勢が強くなっています。

彩都は、箕面市と茨木市にまたがってお

りますが、まちづくりとしては一つです。ので、両市が連携して、より地域が混ざり合うよう活動されていくことを望みます。

**澤木** まちとともに学校を一緒につくっていくにあたっては、学校や子どもを通じたコミュニティ形成が重要になってくると思います。新しいまちをつくるにあたって、まさに学校がこれからのキーポイントになるような予感がします。

彩都は学校の外での遊び空間、つまり、まわりに里山があり、緑地や近隣公園など自然環境に恵まれています。そうした環境を活かした五感を育てるための新しい教育プログラムなど、彩都の自然環境の活用についてはいかがでしょうか。

**中井** 先程学校がいろいろなところをつないでいくというお話をさせていたいただきましたが、彩都の裏山には豊かな自然林が広がっていますので、自然とのつながりは、彩都に生まれる学校として真っ先に取り組みたい、活用していきたいテーマだと思っています。

**澤木** 茨木市エリアでは里山保全も棚田づくりなど、地域の方々とともにさまざまな活動が行われていますが、箕面市エリアでも同様の活動が展開されることを期待します。さらに、ライフサイエンスパークや、大阪大学の外国語学部がすぐ横にあります。そうした地域環境ともつながりあいなからまちづくりが進んでいけばと思います。

最後に、彩都に関する今後の期待を一言ずついただきたいのですが。

**中井** あふれるばかりの自然と、日本最先端の科学技術、大阪でも最も国際色豊

かな機関が近くにあります。このロケーション、この地の利を最大限生かした小中一貫校をつくらないと、われわれの役目が果たせないと思っています。

**澤木** ありがとうございます。澤村さんいかがでしょうか。

**澤村** これまで、まちに対するいろいろな思いを込めて、たくさん仕掛けづくりに取り組んできました。今後も、住民や彩都進出企業などが主役になって、まちが育っていくことを大きく期待し、われわれも地域に根ざしていくような仕掛けづくりにこれからもしっかりと取り組みたいと思っています。

**澤木** 小中一貫校をはじめとする教育施設の充実、安心して子育てをしっかりとできるというのが、これからの彩都の魅力になっていくと思います。

### Access

都心梅田へ18km圏内。  
快適なアクセスを使いこなす  
都心と結ばれた便利な「まち」

- 大阪モノレール彩都線「彩都西」駅より
- 北大阪急行線  
「千里中央」へ……17分
  - 「梅田」へ……37分  
※朝夕ラッシュ時・深夜帯は  
千里中央～彩都西駅で直通運転。
  - 阪急京都線  
「南茨木」へ……17分
  - 「梅田」へ……33分  
※乗り換え時間は含まれません。



マンション、戸建・宅地、施設用地の情報満載の「Cube3110」へ、ぜひお立ち寄り下さい。

**Cube3110**  
彩都インフォ\*ミュージアムは、  
「彩都西」駅前です。



**Cube3110** 彩都インフォ\*ミュージアム

**Hankyu** 阪急電鉄 阪急不動産

0120-5-3110-5 [www.e3110.com](http://www.e3110.com)

営業時間/午前10時～午後6時(定休日:水曜日)